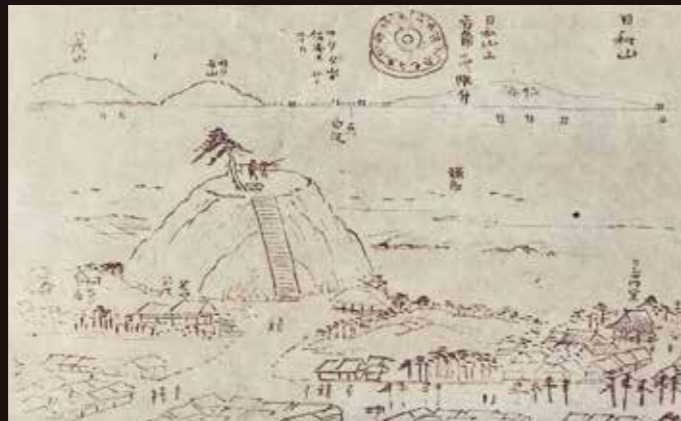


### ●新潟名所「日和山」

町の北端、洲崎町(現在の東堀通13番町)の高台「日和山」は、港に入る船の水先案内(水戸教)を行う場所でした。

明治になると、新潟の町は次第に家並がのび、西洋風の建物も建ち始めます。日和山の高台はそんな景色を眺めるのにも都合がよく、人々の絶好の散策地となりました。眼下には新潟町の通りと堀、家々や寺の大屋根が整然と並び、そのむこうには信濃川に並ぶ船の帆柱や、対岸の沼垂の町。遠くには弥彦山や角田山、県境の山々、海には粟島と佐渡島が浮かんでいます。日和山の頂上には住吉神社とやぐらのほかに茶屋もあり、そんな町の眺めをのんびりと楽しむことができました。



長谷川雪貞の「北国一瞥写 出羽越後」に取られた天保2(1831)年の日和山。頂上の松や遠めがねをのぞく人、沖の船、ふもとの茶屋と町などが描かれています。(野内隆裕氏所蔵)



大正期の日和山。かつてはこんなやぐらがありました。(「新潟名所絵葉書」より野内隆裕氏所蔵)



みなとまちの象徴といえる方角石は、白山神社や礎公園などでモチーフに使われています。小路案内板や誘導サインなどにもついているので、探してみてください。



2015年の日和山

### 日和山

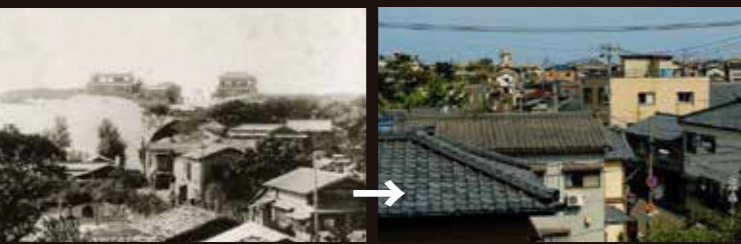
中央区東堀通13番町

### ●日和山と新日和山

ところが、明治13(1880)年8月の大火で日和山頂上の住吉社と茶屋、やぐらが消失してしまいます。このため、翌14(1881)年に日和山よりも北の砂丘の上に日和見の場所を移すことになりました。これが「新日和山」です。新しいやぐらと茶店が建てられた新日和山は、新潟で一番見晴らしが良い場所としてたくさんの人でにぎわいました。尾崎紅葉、北原白秋などの文人も訪れたそうです。

その後、海岸浸食によって新日和山は削られ、昭和11(1936)年、少し後退した現在の場所(中央区西船見町)に高さ7.2メートルの「日和山展望台」が建てられました。今の展望台は昭和52(1977)年に完成した2代目で、高さは9メートルあります。

川村奉行が嘉永5(1852)年に作らせた新潟の風俗絵巻「壁の手振り(あまてふり)」には、日和山の脇を歩いて浜へ向かう漁祭りの行列の楽しそうなようすが描かれています。(みなと歴史博物館所蔵)



日和山から新日和山方面の眺め。(「新潟名所絵葉書」より野内隆裕氏所蔵) 手前に日和山共同墓地、砂丘の向こうは日本海。右は2008年に同じ位置から撮ったもの。



日和山からの新潟港方面の眺め。(「新潟名所絵葉書」より野内隆裕氏所蔵) 手前は本町通14番町。右は2008年に同じ位置から撮ったもの。



3枝とも新日和山の絵はがき。真ん中の写真の楕円の中は、初代日和山展望台。(すべて「新潟名所絵葉書」より野内隆裕氏所蔵)

2016年NHKプラタモリ新潟のロケ地ですな。

砂丘の高低差をあるく日和山登山、いかがでしたニャ? 新潟の町の特徴が感じられましたかニャー。右は現在の日和山展望台とそこから見た海岸線。歩いたあとに見ると、また格別な景色ですニャー。



日和山は2009年に改修工事が行われ、名所として復活しました。2015年には新潟市民文化遺産にも登録されました。



みなとまち新潟・日和山 進化する日和山物語

審査委員の評価  
住民自らが地域の潜在的な魅力を発揮し、整備にまでつなげたプロジェクト。既に受賞している「新潟の町(小路めぐり)」との連携や、応募者の地域へのコミットメントの深さも評価されました。



### 本町通の市場

田畑のほとんどない新潟町では市はなくはならないもので、新津屋小路では年間を通して毎朝野菜や魚類を売る朝市が開かれています。文化9(1812)年頃には、御祭堀に入る船で運ばれた野菜などを商う市が御祭堀の下手(現本町通12・13番町)でも立つようになり、「北市場」と呼ばれました。現在の下本町市場のはじまりです。

明治後半、市場はますますにぎわいを増します。大正3(1914)年には本町通5・6番町の「南市場」に330人、「北市場」に280人ほどが出店していたそうです。ほかにも、湊町通周辺の「運上所市」、西厩島周辺や古町通で開かれた、露店商の「夜市」などがありました。昭和になると、交通網や商業施設などの変化によって市は少しずつ縮小されていきます。



下本町市場近くにある「あけぼの公園」。大正元(1911)年に湊小学校が古町通13番町移転した跡地にできた、新潟で3番目の公園だよ。ボクがいるから探してね。



2020年には築140年以上の蔵(国の登録有形文化財)をリノベーションした民泊OTONARIも登場



北前船の時代館(旧小澤家住宅)

### 上大川前通の回船問屋



お庭にある北前船で運ばれてきた各地の石に注目だにゃ



江戸時代、回船問屋の大店のほとんどは大川前通(現在の上大川前通)や本町通に店を構え、暮らしていました。下本町の市場から魅力的な小路を抜けて上大川前通に出ると、今も残る回船問屋の建物や古い町屋などを見ることができます。その代表的な建物が、一般公開されている旧小澤家住宅(写真左3点:新潟市文化財)です。見事な建物とお庭に、みなとまち新潟の歴史を実感することができます。



2015年の日和山

### 「島」の変化

他門川を挟んだ島、「厩島」と「梨島(秣島、榛島)」は、それぞれに町並が変化しました(図BC)。



2015年の日和山

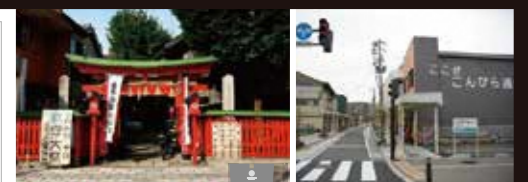
### ●厩島の夜市

「西厩島町」にも、海上安全の守護神「金刀比羅神社」(中央区西厩島)があり、「島のこんびら様」と呼ばれています。この神社の収蔵庫には、船主や船頭たちが航海の安全を祈願して奉納した北前船の模型が今も大切におさめられています。

西厩島町の通りは「こんびら通り」とよばれ、明治30年代から大正にかけて、「夜市」や映画館など庶民の楽しみ場としてたいへんにぎわいました。

### ●梨島の街区整備

「梨島」と呼ばれた礎町周辺は、楠本県令の指示のもとにお屋敷町として開発が進められ、広い道路が通っていました。礎町通はその時できた道路です。大正12(1924)年には、白山公園に次ぐ新潟で2番目の公園として礎公園(中央区礎町通6)が整備されます。同じ年には皇太子の結婚記念として、大円寺跡地(現在の大円寺公園・中央区礎町通4・5、下大川前通4・5)にまたがる場所に「報時塔」も建ちました。時代の変化は、町をさまざまに変化させながらかたちづいています。



現在のこんびら通り(上の絵葉書とはほぼ同じ位置から撮影したもの)



西厩島町の金刀比羅神社と奉納和船模型



礎公園



上左:報時塔 上右:現在の大円寺公園 左:礎町通

